

# 第68回 NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会【決勝】

## アナウンス部門 審査結果及び講評

審査順	学校名	名前	得点/500	講評	安田先生講評
1	府箕面	妹川	340	リード文が長く何のニュースか伝わりにくいので要注意。力を抜いて柔らかさを出そう。課題文は大事なところが伝わらないので読み方の工夫を。	「にじゅうく」です。ドキュメントのナレーションではないので、校内に生放送する話題として書いてください。いきなり76年前の出来事の説明から入ると、生放送の流れに入れられないと思います。のとさんの今の活動を具体的に説明する情報が少ないと思います。声はよく出ています。課題。「近畿大学は学生や教職員など」ではないはず。意味のまとまりを作れていないと思います。
2	相愛	橋口	5位	内容が面白い。ナ行、ラ行など音声面での表現に気を付けよう。課題原稿では読むのに精一杯で焦っている印象を受けました。	子音のSの発音を見直してください。「見えない」が「みれない」のように聞こえました。「口」の「く」など、無声化を身に付けて。「困ることがあります」という始め方が、今回の内容(今)に合っているかどうか疑問です。自然に話すことはできていると思います。課題。「ワクチン」の無声化。「などでの」のあとのプレスが惜しい。難しい長文になっても慌てずに話している点は高く評価できると思います。
3	桃山	今	1位	発声は明るく丁寧。意味をよく考えて読んでいる。原稿はもう少し工夫の余地があります。	冒頭の2文は、生放送のニュース文としては違和感があります。テレビ用のナレーションになってると思います。昔話が長く感じます。今はどんな技に取り組んでるのか。課題は何なのか。「そしてつかみ取った」の中身は言わないの？「たそです」のような伝聞はなるべく使わないで。「寝れば治ると気負わない」が、やや分かりにくい言葉遣いでした。気持ちの動きだけを追いかけても、ニュースとしては物足りないですね。スポーツの話題なので、その現場が見えてくるような具体的な情報を充実させたいです。文学的センスと語りの威力で乗り切ろうとしているように聞こえて、高く評価しにくい。最後は一人で盛り上がりすぎ。これだと、このまま生放送を続けるのが難しくなると思います。課題文は悪くありません。校内放送で伝えるニュースということについて、取材の仕方も含めて勉強してくれば高く評価できます。
4	大市立	木下	334	大事な情報を伝えるためにも早口にならないように注意しましょう。文をつなげて読みすぎています。発声面で注意を払いましょう。	今の滑舌力を考えると、急いでしゃべりすぎかもしれません。学校との接点が明確に分かったほうが、校内放送として審査を受けるのには有利だと思います。最低音まで下がるのは文末だけにして下さい。声の出方が不安定です。ところどころ息っぽくなっています。課題。やはり文末以外の切れ目で最低音まで下がってしまっています。自然に話そうとする姿勢は分かりました。緊張で声やしゃべりかたがそこなわれないように、経験を積んでください。
5	桜塚	肥田	入選	テーマが良い。立てるところをしっかりと立てると伝わりやすくなります。ぶつ切りに聞こえるので読み方の工夫を。	「社長」が低いのは違和感があります。「出さない」を慌てないで。「ほんの僅か」だけ頑張ってもだめです。「仕送り」は平板。退学者を一人も出さないために何をしているのかが、1分間かかないと見えてきませんでした。課題。緊張で余裕が無い中で、深いプレスを徹底しようとしているのが分かりました。「職域接種」など、無声化ができれば、さらにリズムカルになります。「8千人」がつぶれました。「医師」など、頭高アクセントが鮮やかでない箇所がありました。
6	桃山	小西	343	内容的に深掘りされたらさらに良かったです。間を空けすぎないなど伝えることに主眼をおいて読み方を考えよう。	リード文が分かりにくい。昨年」は放送では「去年」です。普通に「食堂の営業が再開されました」から始めてもいいと思います。「調理と」だけ低いのはおかしい。他にも自然じゃないイントネーションが目立ちました。「これからも」のあとの言葉が聞き取れません。しゃれた言葉に頼らずに、情報の中身で勝負しましょう。校内の仲間たちに今役立つ情報にこだわってください。課題。最低音まで下がるのは文末だけにして下さい。意味の切れ目と音の切れ目が合わない箇所があります。自然なイントネーションを身に付けて。「執拗」に聞こえます。
7	プール	辻野	3位	聞き取りやすい音声でした。取材も丁寧になされていました。高低のパターンが単調なのが気になりました。	リード文は、十分な存在感がありました。「自分で動かす」の「う」が消えました。吹かれに注意。「ため」が多すぎたかな？「白地に茶色」をコメントに入れるのが最適かどうか。課題。課題のほうがり落ちて充実した声だと思います。「ついて」など余計な立て直しが残っています。この落ち着いたトーンを、自校ニュースでも使いたいですね。ところどころ助詞が伸びています。癖になる前に直して。
8	浪速	西宮	349	丁寧で穏やかな発声ですが、止めるところはしっかり止めましょう。番組名はもっと丁寧に読もう。	1月に再開したということ、今放送するんですか？生放送の内容として違和感があります。校内事情をコンテストを通じて校外に知らせようとしているのでは？「今回の放送で」は要らないと思います。音域を広く使って積極的に話しているのは良いと思います。語尾が伸びるのが癖になっています。課題。意味のまとまりを小さく作りすぎていると思います。よく響く声なので、特に低音が、やや目立ちすぎてしまっています。今後の伸びに期待しつつ、今回の原稿では校内に放送する内容として疑問が残るので、あまり高く評価しにくいです。
9	相愛	神館	入選	柔らかい読みですが、語尾が落ちていないのが気になります。終わり方が紋切型なので工夫がほしいです。	リード文はよくわかる書き方だと思います。「腰のけがで」など、無理に急いでいる箇所があります。「きょうちゃんお帰りの前のポーズが長すぎ。「なるこ」など、余計な立て直しが残っています。「中心に」は要りますか？最低音まで下がるのは文末だけにしましょう。深いプレスを心がけているのは分かりましたが、あまり自然な呼吸になっていないのでは？課題。「などでの」で止まってしまいました。課題の後半から、音量がばらつくようになりました。姿勢が変わったかな？「早い時期」など、自然に言う努力をしましょう。
10	府箕面	大出	2位	助詞が伸びているが、声はマイクに乗っている。丁寧に伝えようとしていることが窺える。終わり方が情緒過多の印象である。	「やまもと」が不鮮明。大鼓の魅力の説明は難しいねえ。痛みを紹介したのは良いと思います。今を伝える情報をもっと増やしたいです。コメントが分かりにくい。「話しています」がニュースの言葉遣い。最後の文は文学的に逃げないほうがいいと思います。課題。自然なイントネーションが保てなかった箇所があります。低音からずり上がるのが癖にならないように注意。並列の情報の音の高さがほぼ全部おかしいです。声の威力は出てきましたね。

# 第68回 NHK杯全国高校放送コンテスト大阪大会【決勝】

## アナウンス部門 審査結果及び講評

審査順	学校名	名前	得点 /500	講評	安田先生講評
11	四天	岡崎	342	間の取り方は良いが、うねりが気になる。一音一音丁寧に発音することを心がけよう。	苗字より名前のほうが高いのはおかしいです。最低音まで下がるのは文末だけにしましょう。はるかさんの話題なので、はるかさんの今を伝える具体的な情報を中心に組み立ててほしいです。言葉を無駄遣いせずに文をスリムにすれば、もっと情報を増やせます。ところどころ母音の発音が横開きでした。課題。意味のまとまりを作りきれないまま読んでいます。ワクチンの「く」は無声化。
12	桃山	杉原	6位	テーマは良いが、内容は絞ってもよかったように思います。文のつながりが上手です。語尾が伸びる癖に注意しましょう。	コメントの引用から始めるのが最適かどうか疑問です。ところどころ、母音の発音が子供っぽくなっています。「本校」は高校生が校内放送で使うには違和感があります。「多くの…嬉しいです」は無くていいと思います。趣旨説明は「」を使わずにできると思います。「探していきたいね」という気持ちになるような情報を増やしてください。そうしないと呼び掛けても届きません。課題。助詞が著しく伸びている箇所があります。意味のまとまりの途中でポーズやプレスが入ってしまっていると思います。並列の情報の高さが不ぞろいです。
13	浪速	大木	347	比較的全体をきちんと読んでいるが、自然なイントネーションを心がけましょう。欲を言えばもう少し取材を重ねてほしいです。	リード文からよっぽど不親切な長さです。「しかし」は書き言葉です。ドキュメントのナレーションじゃないので、自然にしゃべれる言葉にして。「そうです」のような伝聞は不用意に使わない。全体として、過去のエピソードをインタビューで聞き取っただけで書いているように感じます。やはりニュースの醍醐味は今を切り取ることです。それが見えないと、高く評価しにくいです。課題。息が余っているのにプレスが入った箇所があったと思います。そもそも、大きな意味のまとまりを作る努力を途中でやめていると思います。対象者が誰なのかを丁寧に伝えようとしたのが分かりました。「務める」のあとのプレスは要りません。
14	プール	栗飯原	入選	全体的に素直な読みです。囁いているように聞こえたので声の出し方に工夫を。原稿の構成を再考することで伝えたいことが明確化すると思います。	吹かれに注意。リード文は「今伝えるニュース」に適したものになっていると思います。「特に」のあとが、自然な話し言葉になりませんでした。「試着」を丁寧に。「目を輝かせて」がざり上がった。「違いやー」と伸びてしまいました。「聞きました」だと、質問内容を紹介しているだけになってしまいます。もう一息。課題。「職場」の「しよ」は、無声化できない音ですが、消えてしまいました。「などで」のあとのプレスは要りません。意味のまとまりを作る努力を徹底しましょう。「合わせて」は「わ」だけ高く。アクセントは丁寧に勉強してください。最後の大学側のコメントを大切にしたいのが分かりました。
15	相愛	上田	348	テーマは良いが、全体的に平たく聞こえてしまうので伝えたい内容をはっきりさせること、や母音等の発音に注意を払ってみましょう。	番号から1文目まで、普段の声から完全に離れて高くしようとしているように聞こえます。「津波で…」など、低音から入りすぎてわざとらしくなっている箇所があります。あんまり繰り返すというのが出てくると、内容に集中しづらくなります。最後の2文は現実に即してまとめる努力が分かりました。課題のほうが、自然に読んでいると思います。「今月21日」など、どうしてもずり上がってしまいます。「教職員」など、下がり方が中途半端な音がだんだん耳に付いてきました。
16	府箕面	安井	入選	強い声は魅力だが、全体が強い。どこが文の主なのか考えよう。なぜ取材した相手がその仕事を始めたのか理由が知りたい。母音の音をクリアにしよう。	番号が子供っぽくなりました。積極的なのは分かっていたけど、ちょっとやかましく聞こえます。具体的に誰かに向けて話しかけるような語り口を探してみてください。コメント引用に入るときのポーズが長すぎ。コメントが演説のような口調になっていました。わざわざ、わざわざ、わざわざお願いさせなくてもいいんじゃないかなあ…？文末の高止まりが気になります。消毒に適した時間帯が朝早くなのかどうか疑問でした、余計なことだけど。課題。課題文のほうが音域を上手に使っています。高止まりもありませんでした。意味の切れ目と音の切れ目が合わない箇所が多い。読解力と、分かりやすく伝えるための準備が、どちらも不十分だと思います。語尾だけ強くなっています。余った息を吐きだしてるからだと思います。
17	帝塚山	今田	342	低い声が魅力的だが、文頭はもっと高い音から入ろう。もう少し大切な所を強く読むことや力み、うねりを克服することを意識してみましょう。	「せいかばん」を、どうしても使わなきゃだめかな？「変えよう」との意味合いがつかみにくいです。ただ単に買い替えるだけのようにも聞こえます。「しかし」「食い違い」など、書き言葉が混じっています。「…そうです」のような伝聞は不用意に使わない。今を伝える情報がどれなのか、よく分かりませんでした。「努力し続けて」っていわれても分からないなあ…。課題に入ったとたんに、伝えるエネルギーが激減したと思います。仕方なく読んでるように聞こえます。音域も狭くなりました。さすがに、ここまで差があるとなあ…。
18	相愛	岩崎	4位	素直で上手な読みで内容も面白いが、「JKたち」という表現は再考しよう。もっと一音一音を丁寧に読むことを心がけましょう。	「新しい試み」だけってというのは、リード文としてはちょっと物足りないかな？「オンラインで席替えが行われました」とか、もっと効果的な言葉があると思います。「生徒」を何度も言うのは、生徒同士の放送としては違和感があります。「自宅から」の「く」は無声化。「ほんとは」と書いたほうがいいし、そこで止まらないほうがいいと思います。自分たち同士でJKと言いますか？リスナーを考えましょう。話題の選び方は良いと思いました。課題。めりはりを意識したのは分かりましたが、文末を無理やり速くするような不自然さが残っています。自然なイントネーションが保てませんでした。
19	桃山	上木	328	落ち着いているが、文を切りすぎている。長い文は意味を考えて、イントネーションも意識しよう。マイクに近い印象なので距離感も気をつけよう。	リード文が、怒られているように聞こえて、心を閉ざしてしまいそうになりました。吹かれに注意。毎年の取り組みを紹介するのはなくて、今を伝える努力をしましょう。今年の情報は「」で引用されていましたが、そうするのが適切かどうか。最後の意見表明は要らないと思います。課題。最低音まで下がるのは文末だけにしてください。今の滑舌力を超えて急いでしまっていると思います。被修飾語だけ高くするのはおかしいです。